

長久手市里山プラン《概要版》



長久手市

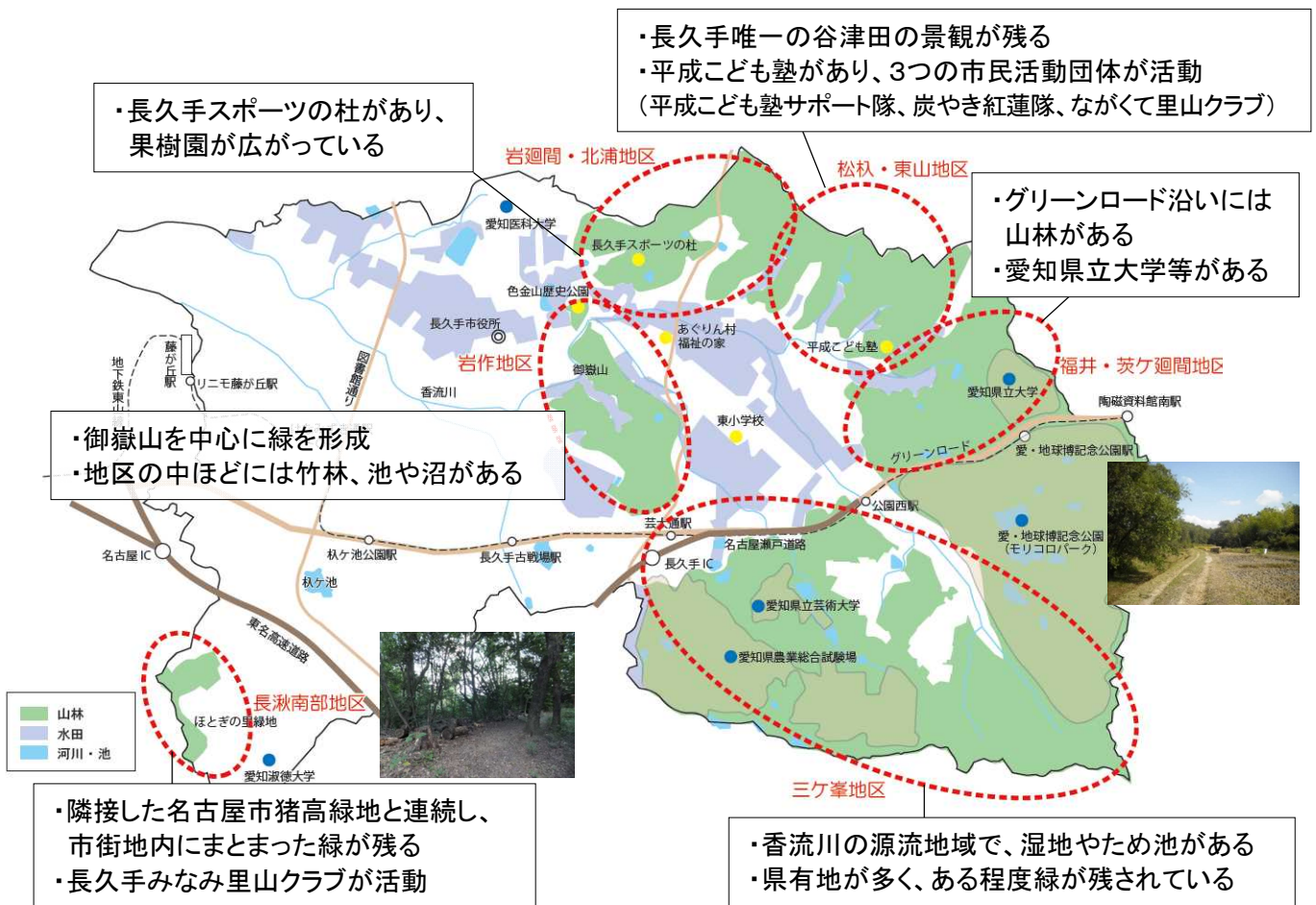
1 趣旨

長久手市には、東部丘陵や長湫南部土地区画整理事業地内に貴重な緑が残されているが、その一部は手入れが行き届かず、放置された状態となっているため、こうした里山の保全・活用の方針を定める。本プランでは、概ね20年後の将来を見据え、**10年間(平成28年度～平成37年度)**の整備構想や取組みを設定する。

2 里山の現状と課題

里山の定義として、本プランにおいては、丘陵・山林だけでなく、里山と連担し一体となる農地や生活の場である里地も含めて「里山」とする。

本市の里山の現状をまとめると、それぞれの地区で以下のような特性がある。



本市の里山における課題をまとめると、以下のように整理される。

- 1 里山各地区の特性の違い
- 2 里山が荒れ生物多様性に影響
- 3 里山に対する関心の薄れ
- 4 里山としての役割の変化

3 基本方針

里山が本市の新たな魅力となるよう、適切な保全と活用を図り、里山と人との新たな関わりをつくり、市民が愛着をもち楽しさを発見することができる『行ってみたい「里山」』を将来の姿として目指す。

なお、すでに市民活動団体による里山づくりが進む長湫南部ほとぎの里緑地を、「先行モデル地区」とする。

また、松杣・東山地区では、「第5次長久手市総合計画」において「木望^{きぼう}の森構想」が主要プロジェクトに位置づけられ、平成こども塾がすでに様々な活動を進めていることから、「試行エリア」と位置づけ、この地区での取組みを他地区に拡大していく。

愛着と楽しさのある

『行ってみたい「里山」』を目指す

基本方針

- 1 各地区の特性を活かした特色ある「里山」とする
- 2 適切な保全により、本市の魅力となる「里山」とする
- 3 交流や体験により、市民が楽しさを発見できる「里山」とする
- 4 里山の保全・活用に関わる人や組織の充実・拡大を図る
- 5 里山と人との新たな関係づくり、仕組みづくりを進める

4 保全・活用方策と整備

①里山の保全方策

池や湧水湿地については、生物多様性に配慮するとともに、「里山」としての景観などに優れた地区については、保全を検討していく。

国や県の助成制度や支援策についても、活用を検討し、専門家の意見を反映しながら保全・活用方策を推進する。

②里山の活用方策

市民活動団体等が中心となり、市民が楽しむことのできる里山の体験講座やイベントなどを開催できるよう検討する。

③里山の整備

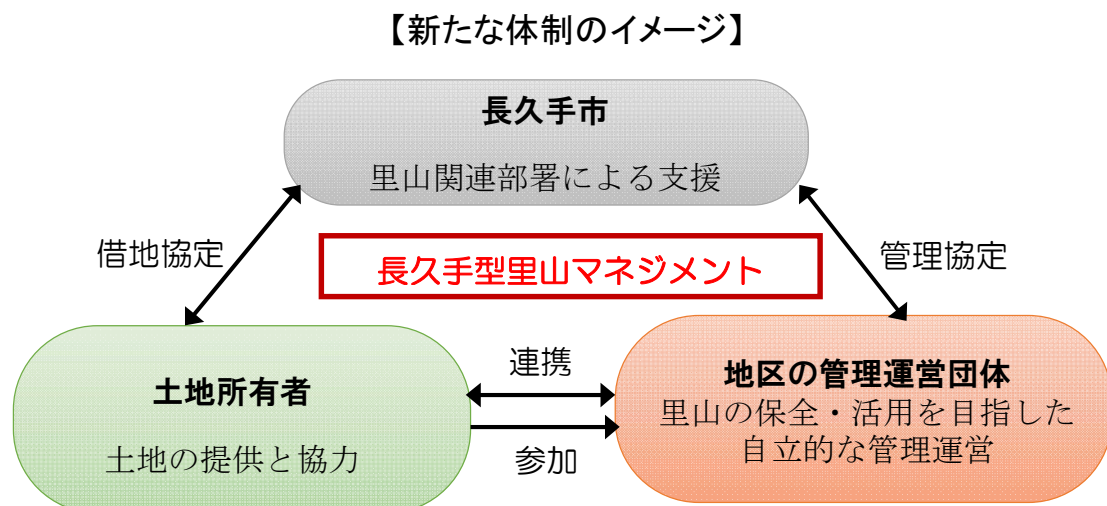
「^{きぼう}木望の森構想」エリアにおいて、愛知県の「あいち森と緑づくり事業交付金」を活用し、里山林整備事業を実施する。

里山での活動に必要な拠点施設について、市民活動団体などの意向を踏まえ、機能を選択し整備内容を検討する。また、自然とのふれあいや健康づくりのため、散策路の整備を検討する。

5 里山の管理・運営

里山の管理・運営は、市が土地所有者から山林を借用し、市民を主体とした地区の管理運営団体が行う仕組みとする。

現時点では、このような組織の母体がないため、ワークショップやイベントなどを通して新たな人材を発掘し、土地所有者とともに、市民活動団体、地域住民、市民などが一体となり、里山の管理・運営体制づくりを目指す。



6 地区別の活動方針

① 里山整備モデル『学びの里』

長湫南部地区 ほとぎの里緑地

- ・市民活動団体が里山保全活動を展開しており、本市の里山整備の先行モデル地区として位置づける。
- ・里山のあり方や整備手法、里山の活用方法や管理形態をみんなが学べる里とする。

② 民有林活用モデル『自然と暮らしの里』

松杣・東山地区

- ・「木望の森構想」エリアであり、民有林を活用する施行エリアとして位置づける。
- ・子どもから高齢者まで、かつての里山の暮らしが体験できる交流の場とする。
 拡大エリア **岩廻間・北浦地区**では、スポーツの杜を活用した健康づくり。
福井・茨ヶ廻間地区では、大学やモリコロパークと連携した自然散策。

③ 農地活用・遊びのモデル『遊びの里』

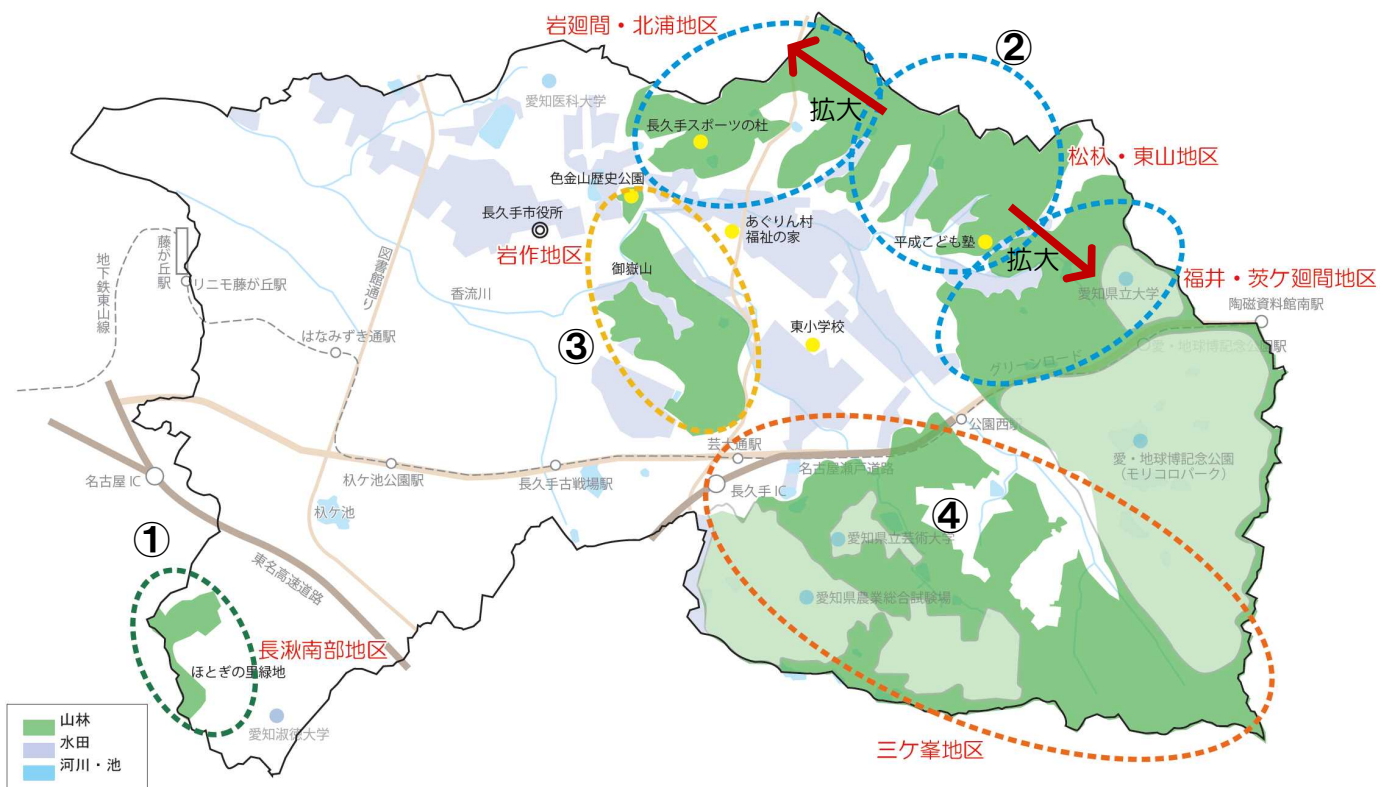
岩作地区

- ・川遊びや山遊びなど、子どもが自然の中で遊べる空間を形成する。
- ・農地を含め、地域と一体となった里山風景を形成する。

④ 健康増進モデル『散策の里』

三ヶ峯地区

- ・対象エリアが広く、農地や丘陵が見渡せるほか、住宅地も隣接していることから、気軽に散策ができる健康増進エリアとして位置づける。



7 先行モデル地区と試行エリア

①長湫南部ほとぎの里緑地（先行モデル）

市有地である長湫南部ほとぎの里緑地では、平成23年度に策定された「里山保全管理計画」に基づき、（一般社団法人）長久手みなみ里山クラブが中心となり、5haの緑地の保全・管理を行っている。

主な取組みは、ほとぎの里交流館の管理、散策路の管理、外部専門家の指導のもと間伐作業を実施、ホテルの復活を目指した育成施設運営、子どもを中心としたイベントなどである。

今後は、地域住民等の参加者を増やし、人材の発掘をすることで活動を拡大していく。



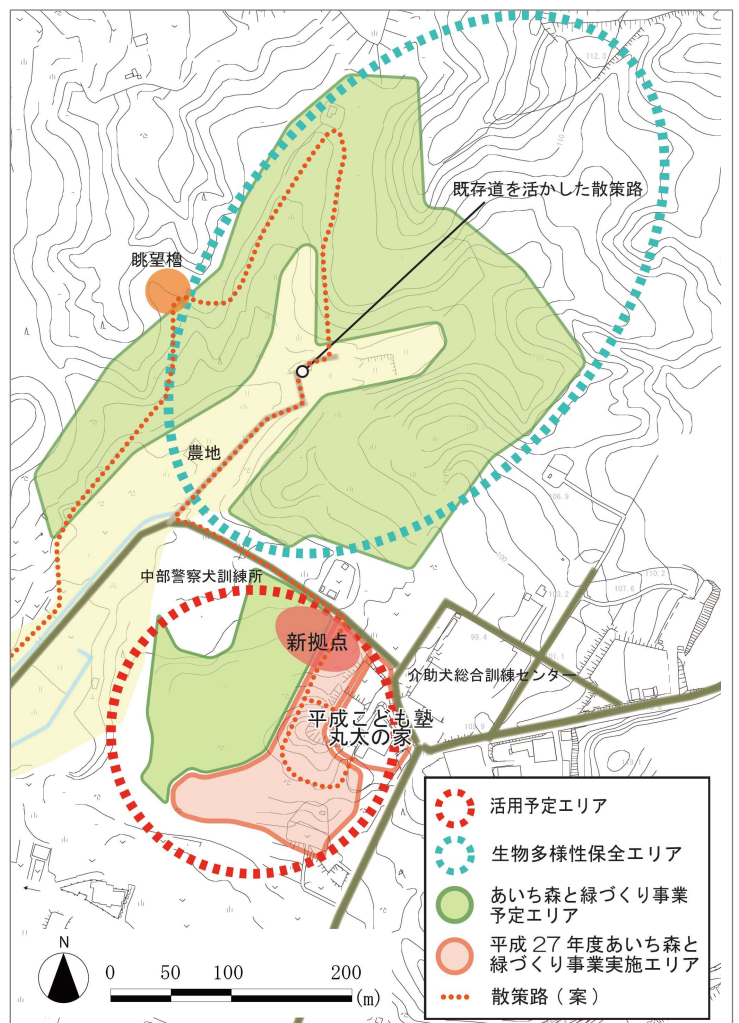
②平成こども塾周辺「木望の森」の整備計画（試行エリア）

総合計画における「木望の森構想」を基に整備を進め、遊びや学びの場となる『自然と暮らしの里』を創出する。

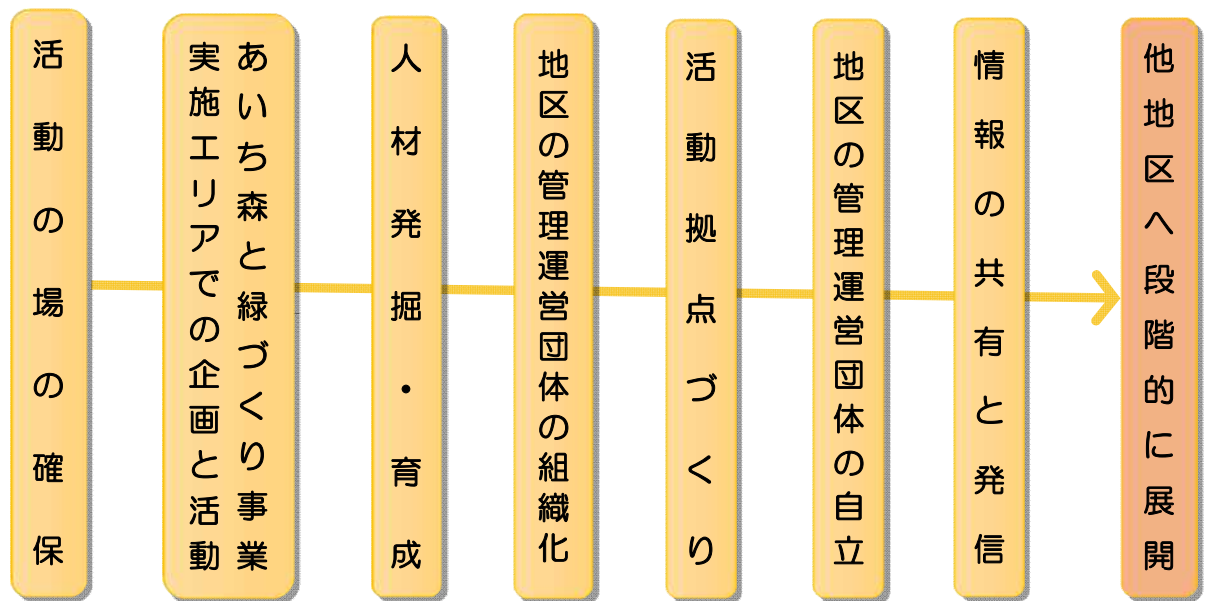
民有林の整備には、「あいち森と緑づくり事業交付金」を活用し、適切に整備し保全を図る。

里山の活用としては、里山の暮らし体験、自然観察の他、将来的には、プレーパークを検討していく。

また、様々な活動に利用できる拠点施設の整備を検討する。



【「木望^{きぼう}の森」の展開イメージ】



【里山の活用イメージ】





長久手市里山プラン

平成 28 年 3 月 発行 / 長久手市
愛知県長久手市岩作城の内 60 番地 1
(〒480-1196) 長久手市建設部都市計画課
電話 0561-63-1111 FAX0561-63-2100